スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

J.LEAGUE

チカラをひとつに。
-TEAM AS ONE-

OFFICIAL NEWS LETTER

10 Nov. 2011 Vol.187

J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS

鹿島がJリーグヤマザキナビスコカップ優勝

延長戦の末に9年ぶり4回目のタイトル獲得。優勝回数は大会史上最多

２０１１Ｊリーグヤマザキナビスコカップ決勝が10月29日に国立競技場で行われ、鹿島アントラーズが延長戦の末に浦和レッズを1−0で破り、9年ぶり4回目の優勝を飾った。鹿島の優勝回数は単独で大会最多。優勝した鹿島には賞金1億円、Ｊリーグカップ（チェアマン杯）、ヤマザキナビスコカップ（スポンサー杯）、メダルが、準優勝の浦和には賞金5,000万円、Jリーグ楯、メダルが、それぞれ授与された。決勝のMVP賞は鹿島のFW大迫勇也、ニューヒーロー賞は浦和のFW原口元気が受賞した。（2〜3ページに関連記事）

J.LEAGUE™ OFFICIAL SPONSORS

Calbee　Canon　KONAMI　AIDEM　Coca-Cola　東京エレクトロン　M

J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER 朝日新聞
LEAGUE CUP SPONSOR ヤマザキナビスコ
SUPER CUP SPONSOR FUJI xerox
J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER adidas
J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER Johnson & Johnson
J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER スカパー!
SPORTS PROMOTION PARTNER toto

編集・発行 社団法人 日本プロサッカーリーグ

延長戦で決着。MVPは大迫（鹿島）

©J.LEAGUE PHOTOS

鹿島アントラーズに待望の得点が生まれたのは、延長前半終了直前の105分。FWの興梠慎三と田代有三のパス交換でチャンスをつくり、最後は21歳のFW大迫勇也が決めた。大迫は準々決勝から3試合連続得点の活躍。鹿島はその後も浦和レッズの反撃を抑えて1−0で逃げ切った。決勝のMVP賞は、貴重な得点をマークした大迫が獲得した。

ＡＦＣチャンピオンズリーグ2011に出場のため、準々決勝からの出場となった鹿島は、準々決勝の横浜Ｆ・マリノス戦、準決勝の名古屋グランパス戦も延長戦の末に勝利。オズワルド オリヴェイラ監督は勝負強さの要因に「献身、犠牲的精神、どのような状況でも諦めない戦い」を挙げた。また、鹿島はＪリーグ、天皇杯全日本サッカー選手権大会を合わせた国内3大タイトルで通算15冠を達成した。

東日本大震災の影響で昨年までとは異なり、ノックアウト方式で行われた今大会で、浦和は1回戦から6連勝で決勝へ進出。鹿島の攻勢をしのぐ時間が長かったものの、日本代表のMF原口元気やMF梅崎司が果敢な突破からシュートを放ってスタンドを沸かせた。

国立競技場のピッチでは、決戦を前に恒例のナビスコキッズバトルを開催。スタジアム内では、ビクトリーロードの写真をバックにした写真撮影コーナーや、両クラブのご当地グルメに長蛇の列ができた。快適な観戦環境整備の一環として、場内に特設託児所、授乳室、救護室も開設。東日本大震災、タイ王国洪水被害、トルコ共和国地震被害の義援金募金活動には、計120万6573円が寄せられた。

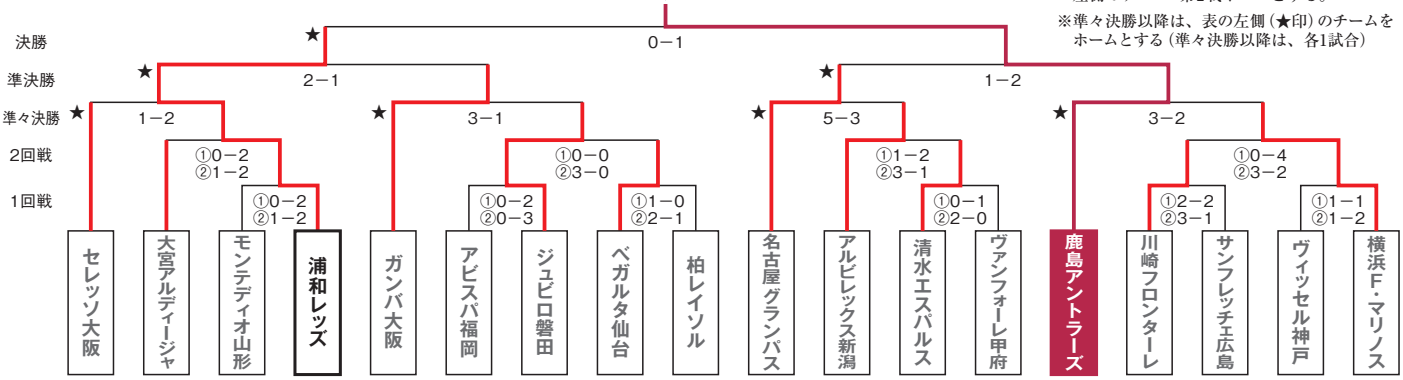
©J.LEAGUE PHOTOS
浦和の原口（右）と鹿島の柴崎ら、若い選手たちが活躍

©J.LEAGUE PHOTOS
野沢（8番）のシュートを好守で防ぐ浦和のGK加藤

2011Jリーグヤマザキナビスコカップ トーナメント表

WINNERS

※1、2回戦は、表の右側のチーム：第1戦ホーム、左側のチーム：第2戦ホームとする。
※準々決勝以降は、表の左側（★印）のチームをホームとする（準々決勝以降は、各1試合）



© J.LEAGUE PHOTOS

2011年10月29日 13:10キックオフ 国立競技場

浦和レッズ 0 1（延長） 鹿島アントラーズ

【入場者数】4万6599人
【主審】東城 穣
【副審】大塚 晴弘／相葉 忠臣
【第4の審判員】木村 博之

【得点経過】
105分 0−1（鹿）大迫 勇也

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

両クラブカラーで染まった国立競技場をヘリコプターから空撮

© J.LEAGUE PHOTOS

厳しい戦いを勝ち抜いて優勝した鹿島は、3大タイトル15冠を達成

決戦前のひととき

© J.LEAGUE PHOTOS

ナビスコキッズバトルのシュートゲーム

© J.LEAGUE PHOTOS

スタジアム内で行われた義援金募金活動

フェイスペインティングコーナーも人気だった

© J.LEAGUE PHOTOS

ビクトリーロードの写真の前で記念撮影

© J.LEAGUE PHOTOS

来場者全員にヤマザキナビスコ製品をプレゼント

© J.LEAGUE PHOTOS

スタジアム内には初の試みとして特設託児所を開設

オズワルド オリヴェイラ監督（鹿島）

© J.LEAGUE PHOTOS

「まず、（鹿島）アントラーズの選手たちにおめでとうと言いたい。二つ目に（浦和）レッズの監督と選手をたたえたい。試合を振り返ると、この決勝にたどり着くまでの道のりは厳しかった。きょうも自分たちが主導権を握りながら、（得点を）ものにできず苦しい展開となった。自分たちで厳しい状況にしてしまった。ただ、最後に120分の戦いを制することができるチームだということを、（準々決勝からの）3試合で見せることができた。本当に幸せに思っている」

堀 孝史監督（浦和）

© J.LEAGUE PHOTOS

「選手と一緒に挑戦するつもりでゲームに臨んだが、アントラーズの方が試合運びは一枚上だと感じた。おめでとうございますと言いたい。ペトロヴィッチ前監督と選手たちで決勝まで駒を進め、急きょ、決勝だけ僕が指揮を執ることになったが、ペトロヴィッチ前監督に敬意を表したい。一人退場者が出て難しいゲームになったが、選手たちはよく戦ってくれた。この後もリーグ戦は続くので気持ちを切り替え、次の目標に向けて頑張っていきたい」

大東 和美Jリーグチェアマン

© J.LEAGUE PHOTOS

「両チームともに前半は硬さがあり、慎重に入り過ぎていたが、後半になると動きが出てきて、浦和レッズの原口選手や鹿島アントラーズの野沢選手ら主要選手が活躍し、楽しんでもらえたと思う。どちらが勝ってもおかしくない試合内容だった。多くのファン・サポーターに来場いただき、天気にも恵まれ、国立競技場が満員となり、とても盛り上がる大会になったと思う」

決勝前夜祭&ニューヒーロー賞

決勝前日の10月28日には、東京都内のホテルで決勝前夜祭が開催された。Jリーグの大東和美チェアマンは冒頭、東日本大震災の影響を受けたことしの大会について「あすの決勝を無事に迎えることができたのは、何よりも大会特別協賛社であるヤマザキナビスコ株式会社様、ならびに飯島社長のひとかたならぬ支援、協力のおかげ」とあいさつ。同社の飯島茂彰 代表取締役社長は「準優勝チームは優勝チームを、優勝チームは準優勝チームをたたえてほしい。決勝戦を終えた両チームには、ホームタウンに戻って地域のファン・サポーターの方々と、さらなるサッカーの振興に努めていただければ、スポンサーとしてこれ以上の喜びはない」と述べた。

1回戦から準決勝まで、最も活躍が顕著だった23歳以下（大会開幕時）の選手が対象となるニューヒーロー賞の発表も、前夜祭の恒例。今大会の受賞者は浦和レッズのFW原口元気。飯島社長より表彰された原口は「（日本代表への招集で）僕は準決勝、準々決勝には出ていない。チームが勝ってくれなかったら、この賞はなかったと思うのでチームメートに感謝したい」と話した。

また、ヤマザキナビスコカップ通算100試合出場を達成した山田暢久（浦和）には、記念パネルが贈られた。

© J.LEAGUE PHOTOS

ニューヒーロー賞の原口。左はヤマザキナビスコ株式会社の飯島社長

© J.LEAGUE PHOTOS

飯島社長、大東チェアマンを中心に、ステージ上に勢ぞろいした両チームの監督、選手

Report
リポート

Jリーグ百年構想

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

17 横浜F・マリノス

クラブの持つノウハウに寄せる期待。地域との協働にさらなる夢をはせる

給食の時間にコーチが同席し、食についてのアドバイスを行う ©Y.F.M

熱心に耳を傾ける子どもたち

2002 ＦＩＦＡワールドカップ日本／韓国開催を前に、決勝の舞台となる横浜市をサッカー文化都市にすべく、横浜Ｆ・マリノスが市と共同で立ち上げた「ふれあいサッカープロジェクト」。Ｊリーグ百年構想の実現を目指した1999年のスタートから10年以上が経過し、ホームタウンである横浜市、横須賀市にサッカーの楽しさを伝え、普及させる事業としてすっかり定着、活動の幅をさらに広げている。

「サッカーキャラバン」は、同プロジェクトの立ち上げ当時から柱の一つとなっている活動で、ホームタウンの小学校を対象に、体育の授業の一環としてコーチングスタッフを派遣し、子どもたちにサッカーを指導する。かつて横浜市をホームタウンとしていた横浜フリューゲルスが1996年に始めた活動を、合併後にF・マリノスが引き継いだ。

当初は横浜市内の4区を対象に始まったが、現在では年間2万3000人、通算延べ13万人を指導するまでに規模が広がった。近年は、体を動かすことの大切さを伝えてきた従来の活動に加えて、「食育」の面からの健康増進にも取り組んでいる。

Ｆ・マリノスは、Ｊリーグで活躍するトップチームから小学生年代の児童に至るまで、所属する選手が100パーセントのパフォーマンスを発揮できるようにと、専属の栄養士を付けるなどして、約10年にわたって栄養面からの体力強化を図ってきた。生活リズムの乱れや偏食などにより、子どもたちの体力低下が危ぶまれる中、クラブが持つそうしたノウハウを地域に還元しようと、2008年にホームタウンの横浜市と協定を締結、本格的な「食育」の取り組みが始まった。

午前中の授業時間に従来の「キャラバン」の活動であるサッカー指導を行った後に、給食にも同席したコーチが子どもたちに食に関するアドバイスを行っている。憧れのＦ・マリノスの〝ブランド〟は子どもたちに強い影響力を持つようで、放課後活動として招いた横浜市立初音が丘小学校の小澤好一校長は「Ｆ・マリノスへの愛着からか、子どもたちはコーチの方々の話に熱心に耳を傾けていました。ボールを使った運動の後というのも効果的なのでしょう」と、その効果を実感している。

小澤好一氏

いずれは食育の現場にも

小澤校長は「子どもたちの体力は1987年ごろがピークで、外で遊ぶのが普通だった当時と比べると、今の子どもたちはだいぶ落ちています。野球やサッカーのクラブに入っている子どもの体力は当時よりむしろ上がっていますが、それ以外の子どもとの二極化が進んでいるのではないでしょうか」と実感を持って語る。それだけに、運動、休養、栄養を三つの柱と考え、体力向上に長く取り組んできたＪクラブが持つノウハウに、寄せる期待は大きいようだ。

「食育」活動の他、昨年からは「サッカーキャラバン」のコーチ役を現役のトップチーム選手が務める「スペシャルキャラバン」の活動も始まった。ことし4月には、シーズン真っただ中でありながら、午前中の練習を終えた選手がいくつかのグループに分かれ、ホームスタジアムである日産スタジアムのある横浜市港北区内の小学校で指導に当たった。中村俊輔選手や大黒将志選手ら、テレビやスタジアムでしか見たことのない有名選手に手ほどきを受ける約40分の間、子どもたちの歓声と笑顔が絶えることがなかった。

「俊輔選手が来た時の子どもたちの盛り上がりは、本当にすごかったと聞いています。いずれ食育の現場にも選手が来てくれるようになったら、子どもたちの関心がより深まるかもしれません」と小澤校長。クラブと地域の協働がもたらす将来に、さらなる夢をはせている。

（神奈川新聞社　鈴木 陸夫）

トップチームの主力である中村選手らの指導に子どもたちは大喜び ©Y.F.M

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Ｊリーグ百年構想」のもと、Ｊクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Ｊクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Ｊクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号では横浜Ｆ・マリノス、ファジアーノ岡山と連携した地域の取り組みにスポットを当てた。

スポーツで、もっと、幸せな国へ。
百年構想

18 ファジアーノ岡山

町内会単位でクラブ支援を表明。応援によって地域の一体感が醸成

お祭りムードの演出

地元の応援団づくりや行政との連携、祭りへの参加。Ｊリーグ入会3年目のファジアーノ岡山は、地域に溶け込もうと日々汗を流し、知恵を絞っている。中でも力を入れているのが町内会単位でクラブ支援を表明してもらう「応援タウン宣言」の地区を増やす取り組みだ。

昨年から活動を本格化させ、ことし9月にかけて岡山市内の計五つの連合町内会が宣言。ホームスタジアムのkankoスタジアム（同市北区いずみ町）周辺や主力のMF妹尾隆佑選手の出身地区を中心に範囲を広げてきた。「今まで以上に目に見える形で協力していただきたいと思った」。ファジアーノの上條仁志ホームタウン推進室室長は活動の狙いを話す。

宣言地域はサポーターとしてさまざまな面で後押しする。例えばホームゲームのある週末に「ファジアーノ岡山 子どもたちに夢を！」「ようこそ おかやまへ」などと書かれたのぼりを道端や軒先に掲げる。その数は徐々に増え、現在は400本ほどになった。スタジアム周辺にクラブカラーのワインレッドののぼりがゆらゆらとはためく様子は、お祭りムードの演出に貢献度大。さらに町内のあちこちにポスターを掲示したり、チラシを回覧したりして試合告知に協力する。

その一方で、クラブ側からは宣言地域で行われる祭りなどのイベントに選手たちやマスコットキャラクターが参加。また、子ども向けのサッカー教室も行って触れ合いを深め、良好な関係をつくろうと努力している。

「うらじゃおどり」への参加は今夏で4年連続。監督や選手らが地域に密着するクラブの存在をアピールした　©ファジアーノ岡山

地域が今まで以上に活性化

別の2学区とともに最初に宣言した伊島学区連合町内会の高原久幸会長は「応援することで地域が今まで以上に活性化すると考えた」と説明。町内会の会合や地元の小学校でファジアーノの話題が増え、女性を中心に協力してのぼりを出し入れするようになったことなどで「より地元の一体感が醸成された」と手応えを得ている。

高原久幸氏

ファジアーノは宣言地区の増加を目指しており、「活動を通じてクラブに興味を持ってもらい、クラブをキーワードに人と人とのつながりも広げていきたい」と上條室長は意気込む。

行政との関わりも増えてきた。岡山市消防局の依頼で、主力選手4人が住宅用火災警報器の設置啓発ポスターのモデルを務めた。ファジアーノの選手が公的なポスターに起用されるのは初めてで、同局予防課の鈴木史朗課長補佐は「選手たちは岡山で知名度があり、広報効果が大きいと判断した」。10月から約5,000枚が同市内に張られ、火災予防に一役買っている。

8月には夏の風物詩としてにぎわう、おかやま桃太郎まつりで行われる「うらじゃおどり」に4年連続で出場。木村正明代表取締役をはじめフロント、監督、コーチ、選手、育成組織のメンバーら総勢100人が短期間で身に付けた振り付けを笑顔で披露し、見物客から大きな声援を浴びた。Ｊ2リーグ戦の翌日だったが、全員参加で「岡山にファジアーノあり」をアピールした。

ホームタウンを中心に、確実に存在感が増しているファジアーノ岡山。地域とともに歩み、期待に応え、活性化に貢献していく――。より岡山県民に愛されるチームを目指し、市民クラブの奮闘が続く。

（山陽新聞社　平野　裕久）

クラブを応援するのぼりがはためく岡山市北区奉還町　©ファジアーノ岡山

「2011Jユースカップ 第19回Jリーグユース選手権大会」がスタート

ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「2011 Jユースカップ 第19回Jリーグユース選手権大会」が10月22日にスタートした。

Jリーグの各クラブは発足当初より、日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟、地域のサッカークラブ、部活動などと連携しながら、地域における選手の育成や普及に力を注いできた。19回目の開催となる本大会は、日本サッカー協会の第2種（高校生年代）に登録している選手が中心となって活躍し、Jクラブのトップチームへの登竜門ともいわれている。これまでに数多くの有望な選手が輩出し、日本代表やJリーグで活躍するようになった。大会は回を追うごとに価値、注目度を高めており、今回も大会参加を通じて成長する選手たちに期待が高まる。

今回はJ1・J2リーグの36クラブ（カターレ富山、ファジアーノ岡山は不参加）が9グループに分かれて1回戦総当たりの予選リーグを実施し、各グループの1位、同2位の成績上位7チームに、日本クラブユースサッカー連盟の代表4チームを加えた計20チームが11月20日（日）からの決勝トーナメントに出場する。決勝トーナメントはノックアウト方式で、決勝は12月25日（日）に大阪市のキンチョウスタジアムで行われる。

予選リーグの日程、開催競技場などの詳細については、Jリーグ公式ホームページの当該コーナーに掲載されており、試合結果などの情報は随時、更新されている。

10月23日に行われた予選リーグ、F東京vs千葉の試合

審判、相手選手との握手。試合終了後の爽やかなシーン

2011 Jユースカップ 第19回Jリーグユース選手権大会	
日程	予選リーグ 10月22日～11月13日（日） 1回戦 11月20日（日）／日産フィールド小机、万博記念競技場 2回戦 11月23日（水・祝）／出場クラブのホームスタジアムなど 準々決勝 11月27日（日）／ウェーブスタジアム刈谷、キンチョウスタジアム 準決勝 12月23日（金・祝）／キンチョウスタジアム 決勝 12月25日（日）／キンチョウスタジアム
主催	財団法人 日本サッカー協会／社団法人 日本プロサッカーリーグ／朝日新聞社／日刊スポーツ新聞社
共催	一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟
協賛	株式会社日本旅行

「JサポーターWOWパーティー」をJリーグ全38クラブのホームタウンで開催

Jリーグオフィシャルスポンサーである日本マクドナルド株式会社が開催し、Jリーグが協力する「JサポーターWOWパーティー」が各地で行われている。これは、Jリーグ全38クラブのホームタウンにあるマクドナルドの店舗で、各クラブに所属する選手と、事前応募後の抽選によって当選したファン・サポーターが交流するイベント。10月2日にはマクドナルド広島本通店で、10組20人の参加者がサンフレッチェ広島の選手を身近に感じ、楽しいひとときを過ごした。

参加者を前にトークを行う広島の佐藤（左）、森脇の両選手

甲府でのイベントに参加したハーフナー マイク選手も笑顔

当日の参加選手は告知されておらず、ファン・サポーターの間でも人気の高い佐藤寿人、森脇良太の両主力選手の登場は、参加者にとってうれしいサプライズとなった。そして、手を伸ばせば届きそうな参加者との距離に、「こんなに近いのは初めて。ちょっと緊張した」と佐藤選手。さいころの目に応じたテーマで選手が話す「サイコロトーク」では、普段はなかなか知ることのできないプライベートな話題や、試合での隠れたエピソードに、参加者は熱心に耳を傾けた。

続いて両選手が参加者と同席し、ハンバーガーを食べ、サインや写真撮影に応じながら質問に答え、さまざまなプレゼントが当たる抽選会でイベントは終了した。「あんなに話が弾むなんて」と喜んでいたのは、呉市からやってきた専門学校生の武井里美さん。「二人とも本当に親しみやすかった。森脇選手は退場になった時のショックも素直に話してくれた。ますます大ファンになった」と興奮気味に話した。

その森脇選手は前日の試合で負傷したにもかかわらず、「チームにお願いして」の参加。また、佐藤選手も「面白かった。こういうイベントでファン・サポーターとの距離がどんどん近くなれば」と、にこやかに感想を語った。

本イベントはことし12月まで開催される。

Jリーグ準加盟を目指すクラブ向け「Jリーグセミナー」を開催

Jリーグは10月6日、JFAハウスにて、Jリーグ準加盟を目指すクラブの関係者を対象に「Jリーグセミナー」を開催した。このセミナーは、2006年より「Jリーグ準加盟」への申請を予定しているクラブの関係者に向けて、ホームタウンの在り方や、Jリーグ準加盟を目指す上で必要となる情報などを提供し、事前により良い準備をするために、学習と情報交換を目的に実施している。

今回のセミナーに参加したのは35人。クラブ以外にも、群馬県、石川県、島根県のサッカー協会や、秋田県、福島県、福島市、藤枝市、金沢市、沖縄市といった自治体の関係者が出席した。

セミナーの冒頭ではJリーグの大東和美チェアマンが「情報、知識を吸収し、さまざまな準備、心構えをしてほしい」とあいさつ。来年度から施行されるJリーグ クラブライセンス制度にも触れて「入会希望クラブには設備、財政、育成などハード、ソフトの両面から整備が求められている。立派なクラブづくりを目指してほしい」と激励した。

© J.LEAGUE PHOTOS
昨年に続いて自治体の関係者も出席。Jリーグに対する関心の高さをうかがわせた

© J.LEAGUE PHOTOS
セミナーの冒頭であいさつを行った大東チェアマン

続いて(財)日本経済研究所の専務理事で、Jリーグ理事、準加盟アドバイザーも務める傍士銑太氏が「スモール イズ ビューティフル!」とのテーマで基調講演。「地域がイニシアチブを取る時代となり、意識改革が必要。常に上を目指す意識を持ち、資金力だけではないところを見せてほしい」と述べ、Jリーグ入会を目指すクラブづくりに必要な理念、ノウハウなどを解説した。

この他、Jリーグ理事も務める株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブの海野一幸代表取締役社長が「Jクラブのある喜び」と題して特別講演。Jリーグ クラブライセンス制度の概要やJFLについての説明も、それぞれの担当者から行われた。

キャリアデザイン支援プログラム[Jリーグ版よのなか科]ファシリテーター養成講座

Jリーグは2010年度に続き、Jリーグの人材育成活動における選手教育の取り組みとして、文部科学省委託事業の[Jリーグ版よのなか科](正式名称:キャリア・デザイン・サポートプログラム)を実施している。

Jリーグ版よのなか科とは、プロの競技者を目指す人材にとって適切な「キャリア」についての考え方や心構え、社会人として適切な就労観や職業観の醸成を目的に実施し、地域で活躍、貢献できる人材の育成を目指すプログラム。2年目の今年度は「ファシリテーター(進行役)養成」を目的とした講座を開講した。本講座では、13人のファシリテーター候補者が、座学形式の講座を受講し、モデル授業を見学した後にジュニアユースの選手を対象とした全5回の授業を実施。9月24日には横浜F・マリノスで、その第1回目が行われた。

この日は「Jクラブをとりまく"お金"から仕組みを考える」がテーマ。チーム統括本部チームサポート課渉外担当の上田丈晴氏がファシリテーターを務め、横浜FMジュニアユース追浜U−14(中学2年)の20人を対象に授業を進めた。試合日のスタジアムの映像を見ながら、クラブの収入、支出について考えた選手たちは、個人あるいはグループで真剣に課題に取り組み、活発な意見交換。「今からお金の仕組みを知っておくことは大切」「Jリーグはさまざまな人がいて成り立ち、地域が一体となってクラブを支えている」などの感想を述べた。

授業を終えた上田氏は「クラブ単位ではできないことも、Jリーグの協力を得てできる。アカデミーの選手がトップの選手になるための、いい準備になると思う」と話し、横浜FMの嘉悦朗代表取締役社長も「知識を身に付けた選手が社会に出て、『やっぱりマリノスの卒業生は違うね』と言われることはクラブにとっても大切。今後はトップチームまで、各年代でやっていければ」と抱負を語った。

© J.LEAGUE PHOTOS
ファシリテーターとして授業を行う上田氏。話し合いが進むにつれて、選手たちにもクラブの一員としての意識が高まってきた

© J.LEAGUE PHOTOS
選手たちがまず個人で考え、次にグループで意見を出し合う。それをまとめてリーダーが発表し、全員が考えを共有する

「2011 Jリーグアウォーズ」サポーター参加募集 募集要項が決定

Jリーグは、12月5日（月）18時より神奈川県の横浜アリーナで開催する年間表彰式「2011 Jリーグアウォーズ」に、一般参加者1万人を募集することを決定した。Jリーグアウォーズは、今シーズンのJリーグで活躍した選手・監督、クラブ、審判などの功績をたたえ、多くの関係者や、ファン・サポーターとともに1年を締めくくる場となる。また、ことしは会場を4年ぶりに横浜アリーナへ移し、より多くのファン・サポーターの参加が可能となった。一般参加の応募はすでに始まっており、参加希望者はJリーグ公式ホームページ（スマートフォン／モバイルフォン対応可）から申し込むことができる。応募の締め切りは11月25日（金）で、参加者は第一次、第二次の抽選によって決まる。

横浜アリーナが会場となるのは4年ぶり。写真は2007 Jリーグアウォーズ

2011 Jリーグアウォーズ 開催概要	
開催日	2011年12月5日（月）
会　場	横浜アリーナ（神奈川県横浜市港北区新横浜3-10）
内　容	16：30 開場 ・J1・J2リーグ戦全試合写真展示 ・J2 Most Exciting Player 投票（～17:30） 18：00～18：40 サポーターステージショー ・J2 Most Exciting Player 発表 他 ※サポーター投票によって事前に選ばれた「J2 Exciting 20」（J2各クラブ1人選出）の中から、当日の来場者投票で決定する。（2011年より新設） 19：00～20：45（予定） 表彰式 ・Jリーグ年間表彰式

2011 Jリーグアウォーズ サポーター募集要項	
募集期間	2011年10月25日（火）～11月25日（金）
募集人数	合計5,000組1万人（応募は1通につき1組2人まで）
席　種	（1）指定席 プレミアシート（1階席） （2）自由席 クラブエリアシート（2階・3階席） ※J2クラブのサポーター席は3階となります。
来場者プレゼント	Jリーグアウォーズオリジナルピンバッジ＆ Jリーグアウォーズオリジナルプログラム（予定）
応募方法	Jリーグ公式ホームページより
問い合わせ先	2011 Jリーグアウォーズ応募事務局　TEL：03-3585-5009 （月～金12:00～17：00 ※祝日は除く） ※詳細についてはJリーグ公式ホームページの当該コーナー（http://www.j-league.or.jp/awards/）に掲載

功労選手賞について

Jリーグは10月18日に開催した理事会で、元Jリーグ選手の故 松田直樹氏、三浦淳宏氏に対し、功労選手賞として表彰することを決定した。表彰式は、12月5日（月）に開催される2011 Jリーグアウォーズで実施される。

功労選手賞
松田 直樹（まつだ なおき） 1977年3月14日―2011年8月4日（享年34） 出生地：群馬県　ポジション：DF ［所属クラブ］1995～2010年　横浜マリノス（J／J1）／横浜F・マリノス（J1）、2011年 松本山雅FC（JFL）
三浦 淳宏（みうら あつひろ） 1974年7月24日生まれ（37歳） 出生地：大分県　ポジション：MF ［所属クラブ］1995～98年　横浜フリューゲルス（J）、99～2000年　横浜F・マリノス（J1）、01～04年 東京ヴェルディ1969（J1）、05～07年 ヴィッセル神戸（J1／J2）、07～10年 横浜FC（J1／J2）

第4回全国スポーツクラブサミットを後援

Jリーグは10月18日に開催した理事会で、公益財団法人日本スポーツクラブ協会が主催し、11月12日（土）、13日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センター（国際交流棟1階　国際会議室）で開催する「第4回全国スポーツクラブサミット」を後援することを決定した。本サミットは、全国に各種のスポーツクラブを普及・育成するための事業の一環として開催している。

サッカースタジアム建設の機運を高める府民シンポジウム「京都にサッカースタジアムを！～地域に根差したスポーツ文化の創造～」を後援

Jリーグは10月18日に開催した理事会で、標記シンポジウム（主催：京都・サッカースタジアムを推進する会、京都商工会議所京都スポーツ振興特別委員会）の後援を決定した。本シンポジウムは、京都府内に国際試合に対応できるサッカースタジアムがほとんどない状況の中で、スタジアム建設推進の機運をさらに高めるために、府民・市民を対象として、11月29日（火）にシルクホール（京都産業会館8階）で開催する。

「TOYOTAプレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン2011」にJリーグチャンピオンが出場

ことし12月8日（木）～18日（日）に豊田スタジアム、横浜国際総合競技場で開催される「TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン2011」に、日本からは2011シーズンのJリーグチャンピオンが出場する。AFC（アジアサッカー連盟）の代表を決めるAFCチャンピオンズリーグ2011（ACL）準々決勝でセレッソ大阪が全北現代モータース（韓国）に敗れ、日本勢の優勝がなくなったため、今シーズンのJ1リーグ戦優勝クラブが開催国代表として出場権を獲得。ACLで日本勢が優勝した場合、同大会で最上位の成績を収めた日本以外の国のクラブが開催国代表枠で出場することになっていた。